

アジア共通歴史学習の可能性 「日本型教育の二つの流れ」

1. あるミュージックビデオ

資料1 クスノキリレーソング

<https://www.youtube.com/watch?v=mlcRjluMxVo>

このミュージックビデオは、戦後70年の2015年に長崎商工会議所青年部等のクスノキリレーソングプロジェクトが作成しました。その前年に長崎出身の福山雅治の11作目のアルバム『HUMAN』の第一曲目として収録された「クスノキ」という楽曲を約1500人が参加したリレー形式のMVです。

タイトルの「クスノキ」は、長崎原爆の中心地から800メートルのところにある山王神社のクスノキのこと。被爆して焼けたが、復活して今も育っています。木のうろには原爆で飛ばされてきた焼けた石や瓦の破片が入っています。原爆からの復活の象徴となっています。

資料2 爆心地写真 私と原爆

私の義理の叔父は12歳で爆心地で死んでいます。ばく進から約50メートルのところ、体は無傷で、家屋疎開の作業中の同級生たちと爆心地を向いて死んでいたそうです。私の父親は、原爆投下の前日8月8日夜行列車で北九州に縁故疎開に出発して、命拾いしました。なかなか切符がとれずようやくとれた切符でその日のうちに出発し、翌朝、小倉の手前で空襲警報で列車が止まって動かなかったそうです。今は、歴史研究で、当日の第一目標が小倉で、広島と同じ時刻の8時過ぎに爆撃しようとしたのですが、天候が悪く、第二目標の長崎に進路を変え、11時過ぎの長崎投下となったことがわかっています。父親が、8月8日の夜行で出発しなければ、あるいは小倉に原爆が投下されていたら、今の私は存在しなかったかも知れません。このように、長崎原爆は、私にとってファミリーヒストリーの一部です。そのため、原爆に対する否定的な意識は強く持っています。

2. 異なる立場の存在

ところが、立場を変えれば、原爆を否定的に見る私の見方は当たり前ではありません。

資料3 BTS（防弾少年団） 2020年アメリカビルボード首位をキープするなど世界的に活躍する韓国の音楽グループ、2018年の原爆Tシャツ問題

<https://news.yahoo.co.jp/byline/ishidosatoru/20181211-00107287/>

資料4 2016年オバマ大統領広島訪問

https://www.huffingtonpost.jp/2016/05/22/obama-hiroshima-snyder-interview_n_10089756.html

この資料のように、原爆投下は、必ずしもネガティブでなく、戦争終結を早めたポジティブな出来事として捉える見方もあります。私は1992年に上五島高校教員の時に長崎県の韓国訪問プログラムで韓国の釜山ホームステイを経験しました。釜山は、母親が生まれ、祖父は棟梁として神社や学校を建てていた町で、戦争が終わって引き揚げてきたときの苦労話を私は、聞いていました。釜山でのいい思い出を語っていましたが、韓国では、日本の植民地時代の歴史は、当然ネガティブに語られていて、私は、複雑な気持ちでした。「同じ「過去」に対して「異なる立場（歴史）」がある」この問題は、私の自身の問題として、次第に大きくなりました。

3. 異なる立場に立つ学習・・・英国の中学校でのショック

資料4 英国での授業実践（アメリカをどう思うのか？）

長崎県教育センター所員のとき、1994年に当時の文部省の研修として1ヶ月間英国に派遣されました。そのうち2週間は、中学校の教師宅にホームステイで、ホストと一緒に学校に出勤し、一緒に帰宅するというプログラムでした。このときに、原爆について、スライドを見せて授業をしました。そのときに、生徒から「日本の人は、アメリカのことをどう思うのか？」という質問を受けました。こんなひどいことをされて憎んでいるか？という質問です。私は、「憎んでいないが、戦争はしてはいけないと思っている」と答えましたが、鋭い質問だと、いまでも覚えています。いったいどんな立場（考え）か？端的に問われたのでした。そのとき、英国の教科書に原爆の歴史が、日本の教科書以上に詳細に記載され、その当時の被爆者の日記なども資料とされていることを知りました。英国のLONGMAN社の歴史教科書と「マークピューレンの謎」という教材を紹介します。

（土屋武志『解釈型歴史学習のすすめ－対話を重視した社会科歴史』梓出版社、2011参照）

その翌年、私は愛知教育大学に採用されました。大学教員になって良かったことの一つに教科書作成に携われたことです。早速、英国の教科書の要素を取り入れて、情報を選択して組み合わせて歴史を説明する「歴史探偵」のコーナーや広島原爆で亡くなった森脇瑤子さんの日記を載せたり、教科書の改善に関わることになりました。この教科書は、全国シェア1.6%で廃刊の危機にありましたが、改善を試みた結果、今は25%を超えて全国の中学生の4人に一人が使うようになりました。現場から評価されうれしく思っています。

4. アジア共通歴史学習（多言語・多文化社会）二つの方向性・・・多重市民権

資料5 土屋武志『アジア共通歴史学習の可能性－解釈型歴史学習の史的研究』梓出版社、2013

解釈型歴史学習の系譜と暗記学習の系譜・・・どちらを日本型と呼ぶか？

私は、長崎大学卒業後中学校教員となりましたが、退職して上越教育大学修士課程に進学しました。修論は、大正自由主義教育があったのに国家主義教育に傾いていったのか？というもんだに取り組みました。資料と向き合ううちに1930年代の日本が、多文化社会だったことに気付きました。その社会の中で、「自学自習」＝主体的探究的学習や「分団学習」＝グループ学習が行われ、豊臣秀吉の朝鮮侵略を批判的に見る子どもや、朝鮮半島出身の人たちとの共生を重視する実践が試みられていたことに注目しました。愛知教育大学の教員となってから、この研究を深めて博士論文「解釈型歴史学習の歴史的研究－学習方法をめぐる変遷・転換過程の批判的検討－」（2012）をまとめました。これをもとに『アジア共通歴史学習の可能性－解釈型歴史学習の史的的研究』梓出版社（2013）を出版しました。ここでは、英国の政治学者デレック・ヒーターの「多重市民権」という考え方を参考にしました。

単一のアイデンティティと異なる方向性の発見

資料6 デレック・ヒーター『市民権とは何か』、岩波書店、2002

デレック・ヒーターは、「社会・経済・政治システムがグローバル化する現在、近代国民国家の枠組みで考えられてきた「市民権」概念が揺らいでいる。欧州に生まれた「市民権」概念を、「自由主義」と「市民共和主義」という2つの伝統から説明し、現代の多文化社会に対応した新しい「多重市民権」（「並列型市民権」「階層型市民権」）で捉え直す。」ことを試みました。

<https://www.iwanami.co.jp/book/b261913.html>

その結果、「多重市民権」という考えを提案しました。それは、AかBかでなくAもBもという発想で、文化統合ではなく、それらを包含する多重の市民という発想です。例えば、私のアイデンティティは、日本国民だけでなく愛知県民や岡崎市民や愛知教育大学教員など重層的にいくつもあるという考えです。このような社会が実は世界には多いです。私が共同研究をしているインドネシアのスラバヤでは、学校ではインドネシア語、家ではジャワ語で話すように、学校で使う言語と家庭で使う言語が異なっているところが、世界では多いため、EUのように国境を越えた世界を意識するときに単一のアイデンティティが邪魔になることが多いのです。

5. 多様性「考え対話する学習活動」の基本要素

資料6 2つのゲーム

異なる新聞記事・・・100年後の歴史家が、今をどのように紹介するか？

これから新聞記事をランダムに配ります。一人一つとってください。

その記事を見た100年後の人だと思ってみてください。100年前の今はどんな世界に見えますか？

では、隣の人が持っている記事をお互いに見てください。隣の人の記事はあなたとは違う記事です。その記事から見える世界は、どんな世界でしょうか。つまり、持っている情報が異なる場合、異なる世界が見えるのです。「歴史」も同じで、持っている情報が違

うと違う歴史を描きます。大切なのは、「歴史」とは、そのようなものであることをまずは理解することです。そのうえで、その情報を多面的多角的に見ようとする、つまり異なる立場から見てみるように努力してやることです。

もう一つのゲームにチャレンジしてみましょう。

フランスの小学校テキストにある沈没船ゲームです。

【問題】沈みかけた船から脱出させる6人の人物を選んでください。

残ってもらう4人を選ぶ方がやりやすいかも知れません。乗客は次の10名です。

- ①農民 ②警察官 ③おばあさん ④小さい女の子 ⑤女の子のお母さん
⑥サッカー選手 ⑦看護師 ⑧目の不自由な人 ⑨牧師 ⑩学校の先生

では、隣のひとと、決壊が同じかどうか確かめてみましょう。

きっと、違っているのではないのでしょうか？実は、このゲームのテーマは、「社会的偏見」です。あなたが選んだその人物は、どのような人でしょうか？サッカー選手は、男性ですか、女性ですか、シニアですか、ジュニアですか。つまり、私たちはある職業や人々をある固定観念で見ているのでは？それでいいだろうか？このゲームは、社会的偏見にどう向き合うか？という学習の導入なのです。（リシャルル・フォルタ、ロラン・ランタンフ『実践 人権教育の方法－フランスのテキストから－』明石書店、2093 参照）

「歴史」を考えるときに、私たちは、その時代の社会の偏見に接することになります。歴史学習は、それを克服してきた「歴史」を学ぶことでもあります。

「日本型歴史教育」は、暗記学習と呼ばれるものでなく、日本でも100年前から試みられている、対話を重視した探究型の学習こそそう呼ぶべきものかも知れません。その内容は、日本の社会科が大切にしている「平和」や「人権」という視点から追究する内容になるでしょう。

6. アジア共通の歴史学習内容

資料7 2人の人物

ジャネット・ランキン <https://americancenterjapan.com/aboutusa/translations/4889/>

市川房枝 https://www2.nhk.or.jp/archives/jinbutsu/detail.cgi?das_id=D0009250021_00000

上記二人の人物、

ジャネット・ランキン「1880年6月11日 - 1973年5月18日」

1940年に連邦議会に再選されたランキンは、真珠湾攻撃の後、連邦議会でただ1人、対日戦への反対票を投じた人物です。そのため政治生命を終えました。しかし、この資料は、いま、アメリカ国務省のアメリカンセンターから配信されています。つまり、いまは、アメリカ民主主義の良心として彼女は歴史的評価を与えられています。

市川房枝「1893年〈明治26年〉5月15日 - 1981年〈昭和56年〉」

岡崎市の愛知県第二師範学校女子部に入学。1912年（明治45年）4月、名古屋市に新設された愛知県女子師範学校（愛知教育大学の前身）に移り、同校の第1回卒業生となりました。女性運動（婦人運動）に参画しましたが、第二次世界大戦終戦後に公職追放となります。婦人団体役員として戦争に協力したという理由でした。彼女は、「戦争反対（の運動）を民間として起こし得なかったことに対しては、私は少し反省しています。この次そういう場合になったら、一生懸命、反対しよう」と述べ、「平和なくして平等なく平等なくして平和なし」と語りました。

このような人々を、今、私たちはどう評価すると、つまりどのように説明すると良いでしょうか？

7. 原爆をどう評価するか？説明するか？＝学習方法は？

戦争当時の日本の人々をどう説明し、これからの多文化社会で対話をどのように進めるか？私自身、解答を見いだしていません。しかし、自分自身の中のアイデンティティの多重性を自覚する。＝異なる複数の立場に立って説明できるトレーニングを学校だけでなく、生涯学習として進める。あくまでもその基礎としての学校教育、それを私は「解釈型歴史学習」と呼んでいます。

これは、ヨーロッパ圏からは当たり前すぎて奇異な用語と見られたり、アジア圏からは、日本の加害責任逃れの詭弁と受け止められたりもします。一方で、日本の憲法に「戦争放棄」が定められていることなど、留学生は殆ど知りません。

今回の冒頭に「クスノキリレーソング」を紹介しました。その制作発起人の水野さんの言葉を紹介します。

「多くの方が被爆 70 周年を機に、あらためて平和の尊さを感じるきっかけのひとつになったのではと思います。今後も継続的にPRし、より多くの方に『クスノキ』のメッセージを受け取ってもらえたらと思います。長崎商工会議所地域政策委員会 委員長 水野和美」

エンドクレジットを見て下さい。本編とほぼ同じくらいの時間流れます。長崎大学の音楽科の学生や銀行の合唱部などこのミュージックビデオを作るのに多くの人が参加しています。映像制作団体Siebolは長崎県立大の情報メディア学科の学生が中心のサークルです。私は、表現方法の多様性に取り組む社会と教育を大切にしたいと考えています。

過去の情報から「歴史」を創ることは、歴史研究者だけでなく子どもたちを含めて市民一人一人にそのチャンスがあります。その基礎として「解釈型歴史学習」を「日本型歴史教育」と呼べるように努力したいと思います。

今回、「日本型歴史教育」のもう一つの強力な流れである「暗記学習」について、十分に述べる事が出来ませんでした。

ご興味があれば、以下の論文を参照ください。

土屋武志「「暗記学習」の終焉」『社会科教育研究』No.137,2019,(日本社会科教育学会)